

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

●新理事長挨拶	1
●新理事挨拶	2
●理事会報告	3
●洋書輸入・輸出統計	4

新理事長挨拶

本年4月より当協会の理事長という要職を拝命しました丸善の土方でございます。微力ながら当協会のために精一杯活動をしてまいりたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

新たな理事会は、副理事長としてUPS社のグレッシャムさん、理事としてユサコ(株)の山川さん、(株)極東書店の相澤さん、センゲージラーニング(株)の松村さん、(株)絵本の家の小松崎さんが選出され、さらに、理事会の推薦理事として、ビューローホソヤの細谷さんを加えた7名が、各委員会メンバーのご協力をいただきながら、これから協会の運営をしてまいります。

経済環境は、安倍政権発足以来、明るい兆しが見えているとはいうものの、洋書や海外学術情報を取り巻くビジネス環境は依然と厳しく、情報流通の変化、さらに円安の影響や電子ジャーナル等の不課税問題、消費増税等いろいろと問題を抱えているということはいまさら言うまでもありません。しかしながら、こういう時だからこそ、協会として会員の皆さんのために何ができるのかということを真剣に考えてゆかねばならないと思っています。

特に、今期は、下記の3点を協会運営の基本的な柱と考えています。

(1) 学びの支援

協会メンバー各社には、それぞれの立場や事情もあり、それぞれに課題があります。統一した解はないと思います。しかしながら、こういうときだからこそ、一人ひとりが学び、あるいは仲間同士で共に考え、知恵を出すことは重要であると思います。その機会をどのように提供できるのかということ、協会としては一つの大きなテーマとして考えてゆきたいと思っています。セミナーや勉強会の開催、あるいは、学びたいと思う会員への支援の仕方等、前期から引き続き重点的に取り組んでゆきたいと思っています。



(2) 情報の共有

同じ洋書業界にいても、取扱商品や対象顧客によって興味や関心も異なります。時には偏りもあるかもしれませんが、できるかぎり、業界に関わる情報はみなさんが共有できればと思っています。そういう意味から、会報やHPを利活用した情報提供を強化してゆきたいと思っています。

(3) 親睦による相互理解

会員同士の親睦というのは、協会の活動の大きな柱です。若い人も、かつて若かった人も、スポーツや文化活動を通じて相互の理解を深めるために、そして参加率をあげるためにも、常に創意工夫をしてゆきたいと思っています。

そのほか、他業界との交流とか、外部機関との接点の強化とか、協会活動の在り方、運営の方法等の課題をアンケートでも指摘されましたが、これらの課題については、引き続き検討、適宜対応を図ってまいります。

協会は、一部の人のためのものではありません。みなさん一人ひとりの考えを反映してゆきたいと思っています。みなさんのご意見を、office@jaip.jpまで、ぜひお寄せください。

以上

2013年5月

理事長 土方 裕之
(丸善株式会社常務取締役)

新 理 事 挨 拶

相澤 久俊(株式会社極東書店・代表取締役社長)

協会の皆様には日頃からお世話になっており、感謝をまず申し上げます。このたびは、はしなくも協会理事に選出をいただき、若干の緊張を伴ったとまどいを感じているところでございます。

正直申し上げて、これまでは自社のことで手一杯でありまして、業界、協会のことまで頭も体もついていない状況です。私(ども)に何ができるのか心もとないところではありますが、先輩理事をはじめとした皆様方のお力を頂戴し、微力ではありますが、努めさせていただく所存です。

さて、昨年末の自民党政権復活は、前政権が失策(マニフェスト違反等)を繰り返したことから産物とは言え、劇的でありました。その後の展開も想像を超える状況をみせていると思います。デフレ脱却に向け、あらゆる政策、手段を駆使するのは当然であります、そのことが企業の健全な発展、人々の生活改善に結びつくものでなければかつての二の舞になるのではないかと懸念しております。

弊社は社会科学、人文科学関係の専門洋書店であり、顧客の多くの方は大学なり専門諸機関に所属しております。そうしたお客様の状況等からも、この間、ときの政策に翻弄される様子が垣間見えたのは辛いところでありました。20年来に亘り、時代の「停滞、急変」を痛感しており、緩やかでよいが、何としても、日本社会の持続的な歩みが期待できる時代を切望するものです。二年間の任期であります、会員各社の皆様とともに業界の発展、協会のさらなる活性化にすこしでも寄与できればと考えております。宜しくお願いいたします。

小松崎敬子(株式会社絵本の家・代表取締役社長)

この度、会員の皆さまから洋書協会の理事に推していただき光栄です。以前に推薦理事を2期務めました時は何か私で出来ることをしようと思い立て女性経営者の会を作りました。その中で経験の豊富な方たちとお話することで私自身も教えていただくことが多くありました。また洋書を扱う会社としての思いを共有することも出来て、今につながる得難いお付き合いが広がりました。

今回は何ができるか目下思案中です。多くの会員の

皆さまのお役に立つ働きを一つでもしたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します

細谷愛子(ビューローホソヤ・代表)

このたび推薦理事として就任いたしましたビューローホソヤの細谷と申します。皆様宜しく願いいたします。

洋書協会には Hachette Japon S.A.(フランス アシエト日本法人)その後独立しビューローホソヤとして通算30年あまり在籍しておりますが 他の理事の皆様とは比較対象とならないほど最小規模会員です。但しカバーする範囲は 当初のフランスの人文社会、アート、絵本、語学教材から この10年程はドイツ、英国、米国のSTM電子ジャーナル、データベースなど電子コンテンツに至っており販路拡張しております。分野によってはオンライン・ライセンスがスタンダードとなった時代、自らの体験も交え、皆様と多くの問題を共有することが出来るのではないかと考えております。

私個人としては 誠に無礼ながら、かつては協会理事会に対し外野席から勝手な発言をし、野次をとばしていたのですが1992年には行動を起こしました。前年にフランス郵政省は突然 船便書籍小包料金制度(いまでは懐かしい名称ですね)を廃止しSAL便または航空便のみ適用と決定したため 私が率先し、洋書協会内外50社近くの書店の署名をかき集め、当時のフランス郵政大臣へ嘆願書を送付いたしました。時間の問題もあり即行動です。コピーはフランス文化省、外務省、対外貿易省各大臣、在日フランス大使館、日本洋書協会などに送付いたしました。

その結果 フランス政府から日本向けに1年間ほど送料助成金を取得、その後フランスの取次店とともに独自の混載発送システムを立ち上げるに至りました。

あれから早や20年ですが これからも小さな会員ながら行動発起できるパワーを持ちつつ理事の一員として協会に貢献できればと願っております。また今後とも存在意義のある協会、魅力ある業界団体としていくためには 次世代の養成、そして彼等にうまくバトンタッチしていくことも我々の任務ではないでしょうか?

さて今度はどなたが野次をとばす番でしょうか?若い皆様の威勢のいい声、ドキッとするような発言をお待ちしております。

理事会

2013年2月27日(水) 於ユサコ会議室

出席：山川理事長、宮川副理事長、土方理事、雨宮理事、鶴理事
(長谷川委員長、事務局)

1. 2012年度予算推移状況
事務局から3月までの見込みの説明があった。ほぼ予算通りに推移し、期末には前期を上回る繰り越しが出る見込みとなった。
2. アンケートの結果について
長谷川総務委員長から選挙時に行ったアンケートの集計結果の報告があった。
個々の意見に対し、理事長が所見、対応策を付け、ホームページに掲載する。
また会費の件など難しい案件は新理事会に引き継ぐ事とした。
3. 理事長から
海外からの電子媒体への消費税課税について税法改正の動きがあるが、この問題については今後とも調査を継続して行きたい。
4. 総務委員長から
理事改選の結果と定時総会に向けて、新旧理事会の開催についてスケジュールの打診があり、了解された。具体的な開催日については今後調整することとした。(スケジュール及びメイン議題については配布資料を参照のこと)
尚、総会は、平成25年5月17日、国際文化会館にて開催する予定。
5. その他
2013版ダイレクトリーは従来通り、印刷媒体で制作することとした。
作成方法等総務委員会で討議する。

2013年3月14日(木) 於ユサコ会議室

出席：土方理事、グレッシャム理事、山川理事、相澤理事、松村理事、小松崎理事

(事務局)

1. 理事長、副理事長選出
互選の結果理事長に得票1位の土方氏(丸善)、副理事長に得票2位のグレッシャム氏(UPS)が選ばれた。4月1日から就任。
2. 推薦理事候補選出
女性を入れたいとの意向で、細谷氏(ビューローホソヤ)を候補者とした。
打診、交渉は新理事長が行う。事務局も同行する。(後日交渉の結果、了承を得た)
3. 次期活動方針(案)策定
 - ①委員会構成
総務委員会傘下の渉外Gは廃止し、HP・ダイレクトリーGは会報委員会と合併し、新名称でスタートする。(名称は未定)
総務委員会・総務グループの文化・教育活動とSIG活動を統

合し、総務委員会傘下のグループとする。(名称は未定)

- ②委員会担当理事について
委員会の担当は以下とする。
総務委員会：グレッシャム理事、会報委員会：山川理事、事業委員会：松村理事、レクリエーション委員会：小松崎理事相澤理事は、文化・教育・SIGを統合したグループを担当。先ず国会図書館の見学会から始める。
- ③活動方針(案)
4月初めをめどに作成し、来年度予算に反映させる。
先般行われた会員のアンケートでの課題は順次討議してゆく。
4. 新理事長から
理事会は隔月に定期で行う。全体スケジュールを立てた上で日程を決定する。
関西パーティーは次年度も行う予定

2013年4月10日(水) 午後4時～ 於丸善会議室

出席：土方理事長、グレッシャム副理事長、山川理事、相澤理事、松村理事、小松崎理事、細谷理事(長谷川委員長、事務局)
後半：宮川理事、鶴理事、雨宮理事

冒頭理事長から推薦理事をお願いし受託された細谷氏(ビューローホソヤ)の紹介があった。

1. 2013年度予算討議
総務委員会案を検討した。
収入では雑収入を実現性の高い300,000とした。
支出では
・会報のコンテンツをより充実したものとするため、増ページに対応する予算とする。(山川理事担当)
・セミナーは協会主催にとらわれず、他の講演会等の参加者に補助をすることを検討する。(相澤理事担当)
・来期繰越金から周年事業や緊急事態対応に備え、100万円を特別会計に組み込む。(事務局提案)
以上の修正を加えて、総会に諮ることとした。
2. 2012年度決算報告
冒頭事務局から4月5日に唐澤・相澤両監事による会計監査が無事終了した旨報告があった。
討議の結果承認され、総会に諮ることとした。
3. その他
・会報委員会の名称を「メディア・広報委員会」に変更したい。(山川理事)
・総務委員会文化・教育・SIGグループの名称は総会までに相澤理事が決める。
・土方理事長からTIBFの出席者向け説明会に主催者の一員として出席した旨の報告があった。
・委員会の担当理事のスタート日を明確にしなかったため、混乱している。理事会同様に、4月1日とし、事務局から会員に案内を出す。
・総会の運営手順を確認するために総務委員会を開く。

2012 年 (平成 24 年) 1 月～12 月 洋書輸入・輸出統計

荒 木 亮 一 (2013 年 4 月報告)

財務省から「日本貿易統計2012年」の確定値が3月11日に発表された。例年通りの各種一覧表にまとめたので、“数値”ベースのコメントを付記してご報告とさせていただきます。

当日は「東日本大震災」から2年目に当たった。午後2時46分、1万5880人の御霊に黙祷を捧げ、被災地の日も早い復旧・復興を祈った。併せて、福島、その“原発事故”を「忘れない」ことをモットーに、“日本を取り戻す”約束が早く実現してくれるようにと念じた。

2012年度の貿易総額は、輸出総額が63兆7476億円、前年比-2.7%、輸入総額が70兆6886億円、前年比+3.8%と発表された。前年度は31年ぶりの入超(赤字)、報告年は入超率が+170.1%と“過去最大の赤字”とある。輸出内容を見ると、自動車は12.4%増と回復したが、半導体等電子部品は-6.3%、更に、船舶が-16.1%、鉱物性燃料が-17.5%と2桁の減少、一方、輸入額は、液化天然ガス、通信機が2桁の増加、原油も+7.3%と増加している。最近の情報によると、静岡から九州沖に世界屈指の「燃える水」が眠っているそうだ。これが利用できれば、日本のエネルギー自給率が良くなりそうである。期待したい。

1) 書籍、雑誌などの輸入量について:

★ 洋書輸入統計表(表1-a)の数値から、「単一シートを含む、書籍類」は、中心となる(書籍)が減少したために、全体の前年比は(-5.1%)となった。「新聞・雑誌類」も減少である。昨年4月に学研・主婦の友を含む40社が【“アマゾン”の電子書籍サービス「Kindle」日本版の配信合意】がレポートされ、“電子書籍時代来る!”である。出版界も、書店環境もあまたの進歩から遅れを取ってはならない時代だと思う。テレビで斬新な“世界の書店”環境が紹介された。本を求めるだけではなく、文化的な雰囲気を楽しみ、“紙の本”に親しむというアイデアである。

★ 「単一シート」は、ここ数年、ほぼ同様の20ヶ国からの輸入が続く。輸入額では、中国とタイの合計が前年度より約3千万円の減少だったが、米国(倍増)アイルランドの増加合計、約1億1千万円が大きく寄与している。アップ・アンド・ダウンの必然性が高い品目である。

❖ 「辞典および事典」は昨年度より少ない10ヶ国からで、中国+英国+米国の増加額、約1千7百万円が大きい部分であった。台湾+シンガポールは合計で約1千1百万円の減

(表1-a) 2011 vs 2012 洋書輸入統計表 (単位: 百万円)

分類	品目	2011 Jan-Dec	2012 Jan-Dec	前年比	構成比
書籍 および それに 類する もの	単一シートのもの	469	664	141.6%	2.1%
	辞典および事典	55	64	116.4%	0.2%
	その他のもの(書籍)	21,643	19,997	92.4%	64.3%
	幼児用の絵本および習字本	2,915	3,072	105.4%	9.9%
	小計(1)	25,082	23,797	94.9%	76.6%
楽譜 地図・海図・地球儀	楽譜	351	408	116.2%	1.3%
	地図・海図・地球儀	967	888	91.8%	2.9%
	小計(2)	1,318	1,296	98.3%	4.2%
新聞・ 雑誌 その他 の定期 刊行物	1週に4回以上発行するもの	1.2	1.5	125.0%	0.0%
	雑誌・その他の定期刊行物	7,164	5,981	83.5%	19.2%
	小計(3)	7,165	5,983	83.5%	19.3%
合計	(1)+(3)	32,247	29,780	92.3%	95.8%
合計	(1)+(2)+(3)	33,565	31,076	92.6%	100.0%

少となっていた。この品目は、電子辞書の普及、百科事典の出版、ペーパーバック辞書の輸入量増減などによって敏感に変動することが多い。

❖ 「書籍など」は前年度同様の55カ国から輸入された。主要仕入先10ヶ国(表3-a、オランダ⇒台湾)の輸入合計額でみると、米、英、仏、シンガポール、香港の5ヶ国が減少(前年比-11.9%)、中国、独、韓国、台湾、イタリアが増加(前年比+4.7%)、全体の前年比は(-7.5%)であった。《余談❶1》今回は「モーリタニア」の検索を試みた。輸入額は21万円と小額だが、仕入先として珍しい。モーリタニア・イスラム共和国、アフリカ北西部に位置し、西を大西洋に面する。1960年、アフリカ諸国の相次ぐ独立の中で11月28日に独立、首都はヌアクショット、公用語はアラビア語とフランス語、人口約3千300万。独立後も廃止された奴隷制の実態が続き、再度2003年に人身売買禁止令が公布された。アフリカで貧しい国のひとつとされ、首都でも文化的な生活をしている層はほんの一握りと言う。その故か、女性を“ぼっちゃり”させることが男の甲斐性と考え、妻に1日当たり“14L”(“4Lでは?”と疑う人がいた)のミルクを飲ませる夫もいるとか。昔は10代前半の少女たちに対して“ガバージュ(強制肥満化)”という奇習があり、拒否する者には罰が与えられたそうである。廃止の方向とのことで、現在は5人に1人ほどとか。中国の南宋時代(1127～1279)に盛行した“纏足”の歴史が心をよぎった。また、国土の砂漠化が進み、首都周

辺の住宅地も飲み込まれて放棄に至った、と言う。“廃炉”と違うとは言え、同じ地球上で、国民全体の危機感是如何許りかと、胸が痛むのは筆者ひとりだろうか。

- ◆ 「幼児用絵本・習画本」の輸入は20ヶ国からで、中国、香港、マレーシア、台湾の合計額前年比で増加、アメリカ、タイ、韓国が減少となった。増加した4カ国の輸入額合計、前年比+6.9%、が減少分をおおかた相殺している。
- ◆ 「楽譜」は前年度より3カ国減って、14ヶ国からの輸入で、大手の米、英、独、イタリアの4ヶ国が揃って増加した。
- ◆ 「地球儀・天球儀・地図・海図」の輸入は19ヶ国と少なかった。“地球儀／天球儀”は台湾からの輸入が若干増加したことを除けば、主要の中国、韓国、イタリアは減少である。“製本した地図・海図”は英国、オーストラリアが増加、中国が減少した。“その他のもの(壁掛け用など)”も、大手の英国、オーストラリアが前年より合計約7千3百万円の減少であった。米国は約9百万円増加を示した。
- ◆ 「新聞・雑誌」の減少傾向は6年連続となった。電子ジャーナルの購読がますます増えているのであろう。“週に4回以上発行されるもの”は香港と米国の2カ国のみである(前回是中国、イタリアのみ)。“雑誌・その他の定期刊行物(ジャーナルなど)”は、前期同様、上記の2カ国を含む26カ国から輸入された。

総冊数と総重量対照表(表1-b):

《冊数と重量(KG)の観点から見た商品の傾向》

- ◆ 「単一シートのもの」は、重量の前年比+3.7%に対して輸入額は+41.6%である。中国とタイからの仕入れが減少して、米国とアイルランドが増えたという数値は、高原価、高品質(ケント紙、ワットマン紙など?のシート)が増加したことを示唆しているようである。

(表1-b) 品目別の 2011vs2012 輸入された総重量(Kg.)と総冊数対照表

品目	輸入された「1Kg.あたりの平均冊数」					
(書籍類)	2011 総冊数	2011 総重量	平均冊数 /Kg.	2012 総冊数	2012 総重量	平均冊数 /Kg.
単一シートのもの	--	542,948	--	--	562,801	--
辞典および事典	97,855	70,908	1.4	161,418	83,682	1.9
その他のもの(書籍)	--	9,309,160	--	--	9,338,707	--
幼児用の絵本および習画本	20,844,234	3,519,343	5.9	19,840,850	3,616,645	5.5
小計1(辞典+絵本)	20,942,089	3,590,251	5.8	20,002,268	3,700,327	5.4
(新聞・雑誌)						
1週に4回以上 発行するもの	11,753	1,976	5.9	2,860	487	5.9
雑誌・その他の 定期刊行物	8,685,420	2,245,211	3.9	9,193,395	1,983,679	4.6
小計2(新聞・雑誌)	8,697,173	2,247,187	3.9	9,196,255	1,984,166	4.6
合計1+2	29,639,262	5,837,438	5.1	29,198,523	5,684,493	5.1

- ◆ 「辞典及び事典」の前年比は、冊数+55%、重量+18%、輸入額は+16%。これらの数値は、ペーパーバックなどの軽量のハンディー版の輸入が多かったと推論した。

- ◆ 「その他のもの(書籍)」の前年比は、重量+0.3%に対して輸入額は-7.6%。これらの数値は、ハードカバーものが多かった、と言う推測を呼ぶ。

- ◆ 「幼児用の絵本および習画本」については、前年比が冊数-5%、重量+3%、輸入額+5%なので、これらの数値から、厚紙を使用した高価格のものが多かったことを示唆していると考ええる。

- ◆ 「新聞・雑誌」について、“週4回以上発行するもの”の輸入額が前年比+25%に対して、冊数-76%、重量-75%、ともに大幅ダウンから、例えば、週4回を“1部”として計上するなどの通関統計上の計算基準に変更があったと考えたい。“ジャーナルなど”の輸入額前年比-16.5%に対して、冊数+5.8%、重量-12%と言うアンバランスの原因を読むのはかなり難しい。数値のみから推測して、電子ジャーナルの普及により、印刷物のページ数の削減と、価格の引き下げのイメージである。

★ 品目別平均単価の一覧表である。(表1-c)

- ◆ 「辞典および事典」は、前年比で冊数+65%、平均単価-51%であり、これらの数値も含めて、上記コメントのとおり、廉価版が増加という推測に至った。

- ◆ 「幼児用絵本および習画本」は、冊数-5%、平均単価-9%、これらに対して重量と輸入額が増加なので、上述に加えて、上製のセット商品が“1冊”として通関・記録された場合も推測した。

- ◆ 「新聞・雑誌」については、“週4回以上発行のもの”の冊数が急降下、推定平均単価が急上昇した。通関統計の計算基準の変更と考える。“ジャーナルなど”については、上述

(表1-c) 品目別の 2011vs2012 輸入された総冊数と平均単価対照表

品目	輸入された「総冊数と平均単価」					
(書籍類)	2011 総冊数	2012 総冊数	前年比	2011 平均単価	2012 平均単価	前年比
単一シートのもの	--	--	--	--	--	--
辞典および事典	97,855	161,418	165%	¥801	¥396	49%
その他のもの(書籍)	--	--	--	--	--	--
幼児用の絵本および習画本	20,844,234	19,840,850	95%	¥170	¥155	91%
小計1(辞典+絵本)	20,942,089	20,002,268	96%	¥175	¥157	90%
(新聞・雑誌)						
1週に4回以上 発行するもの	11,763	2,860	24%	¥132	¥532	403%
雑誌・その他の 定期刊行物	8,685,420	9,193,395	106%	¥840	¥651	77%
小計2(新聞・雑誌)	8,697,183	9,196,255	106%	¥840	¥651	77%
合計1+2	29,639,272	29,198,523	99%	¥447	¥312	70%

の通り、電子ジャーナル普及の影響によるページ数削減、
原価切り下げがあったのがイメージであるの

最近10年間の洋書輸入の推移について:

書籍および新聞・雑誌の推移を見る。(表2-a)

- ◆ 「書籍など」は、10年前の約4割減、「雑誌など」は約6割減、合計額では6年連続の減少で10年前のほぼ半減である。最近では早朝からパソコンで「朝日新聞デジタル」を読むことが多い。明らかに電子商品の普及は、家庭の書斎のみならず、居間にまで広がっている。書斎の本棚は寂しそう! 特に辞書類は眠っている今日この頃である。

(表2-a) 最近10年間の洋書輸入統計の推移 (単位 百万円)

品目	書類・辞典・絵本			新聞・雑誌・その他の の定期刊行物			合 計		
	輸入額	前年比	指数	輸入額	前年比	指数	輸入額	前年比	指数
2003	40,585	98%	100	16,756	105%	100	57,341	100%	100
2004	37,086	91%	91	14,575	87%	87	51,661	90%	90
2005	34,767	94%	86	15,353	105%	92	50,120	97%	87
2006	35,660	103%	88	16,259	106%	97	51,919	104%	91
2007	35,080	98%	86	15,824	97%	94	50,904	98%	89
2008	31,229	89%	77	13,300	84%	79	44,529	87%	78
2009	26,013	83%	64	10,962	82%	65	36,975	83%	64
2010	25,646	99%	63	9,137	83%	55	34,783	94%	61
2011	25,082	98%	62	7,165	78%	43	32,247	93%	56
2012	23,797	95%	59	5,983	84%	36	29,780	92%	52

★ 品目別一覧表について:(表2-b)

- ◆ 「単一シート」は、10年前より絶対値が3倍強である。幼児用絵本やアート・ブックの「シート」輸入が拡大しているのだろうか

(表2-b) 最近10年間の品目別の推移 (単位 百万円)

品目	単一シート		辞 典		書 籍		絵 本	
暦年	輸入額	前年比	輸入額	前年比	輸入額	前年比	輸入額	前年比
2003	212	161%	292	88%	36,673	97%	3,401	108%
2004	284	134%	316	108%	32,730	89%	3,756	110%
2005	337	119%	241	76%	30,111	92%	4,078	109%
2006	173	51%	154	64%	30,787	102%	4,546	111%
2007	307	177%	128	83%	29,580	96%	5,066	111%
2008	242	79%	179	140%	26,927	91%	3,881	77%
2009	221	91%	74	41%	22,920	85%	2,798	72%
2010	257	116%	107	145%	22,646	99%	2,636	94%
2011	469	182%	55	51%	21,643	96%	2,915	111%
2012	664	142%	64	116%	19,997	92%	3,072	105%

- ◆ 「辞典」は、絶対値が10年前の5分の1になった。電子書籍、電子辞書の普及が主な原因、と言って間違いはないと思う

- ◆ 「書籍」も減少が続いており、10年前との比較ではほぼ半減である。電子書籍は進歩した文化的環境であるが、「紙の本」に親しみを持つ年齢層も多い筈である。高校英語は「English-speaking」のクラスになるそう。今後の社会的ニーズが変わり、輸入本復活のチャンスを期待したい

- ◆ 「絵本」のマーケットは比較的安定しているように見える。前年度に3年連続の減少から脱出して、報告年も+5%になった。数値の陰に隠れている「構成比」に注目してみると、遡って2002年の中国は、まだ29%であった(米国が46%)が、2004年47%、2005年57%と増え始め、2007年77%、最近の5年間は80%台が続いている。この2年は連続84%であり、出版代行が増加していることを示唆していると思われる。「絵本」は「シート」輸入がプラス・アルファで、輸入書籍・雑誌全体の10%ほどだが、安定マーケットだ

品目別一覧表について:(表2-c)

- ◆ 「新聞・雑誌」の減少が続いている。繰り返してであるが、電子情報の購読、聴取などのビジネス増大の現実が数値に如実に現れる
- ◆ 「楽譜」も減少傾向であるが、顧客層は確定していると思う。「地球儀・天球儀・海図」と「地図本」及び「壁掛け型の地図」を「地図」としたが、数年前から減速であり、毎年、動向が変わるラインだが、広範囲に亘るインターネット検索が可能になった現在、影響を免れぬ。『地図よ、お前もか』とは遣る瀬無い

(表2-c) 最近10年間の品目別の推移 (単位 百万円)

品目	雑誌・新聞		楽譜・地図		合 計	
暦年	輸入額	前年比	輸入額	前年比	輸入額	前年比
2003	16,756	105%	1,575	111%	58,909	101%
2004	14,575	87%	1,621	103%	53,282	90%
2005	15,353	105%	1,706	105%	51,826	97%
2006	16,259	106%	1,755	103%	53,674	104%
2007	15,824	97%	2,147	122%	53,052	99%
2008	13,300	84%	1,867	87%	46,396	87%
2009	10,962	82%	1,520	81%	38,495	83%
2010	9,137	83%	1,505	99%	35,724	93%
2011	7,165	78%	1,318	88%	33,565	94%
2012	5,983	84%	1,296	98%	31,076	93%

主要国／地域からの輸入額について：

主要10カ国からの輸入統計である。(表3—a)

◆ 上位5カ国は変わらずだが、6位、7位の韓国とフランス(仏)は入れ替わった。構成比は、前年度同様の96%である。(▼前年度の表で、構成比に計算ミスがあった。お詫び申し上げます。訂正版をご要望の際は、乞ご連絡。)

(表3—a)2012年 主要10カ国からの輸入統計 (単位 百万円)

品目 国名	書籍・辞典・絵本			雑誌・新聞・他の定期刊行物			合 計		
	輸入額	前年比	構成比	輸入額	前年比	構成比	輸入額	前年比	構成比
米	7,087	89%	30%	3,010	77%	50%	10,097	85%	34%
英	5,421	90%	23%	842	79%	14%	6,263	88%	21%
中国	5,954	104%	25%	84	158%	1%	6,038	104%	20%
独	1,821	106%	8%	63	97%	1%	1,884	106%	6%
オランダ	84	82%	0%	1,225	97%	20%	1,309	96%	4%
韓国	797	114%	3%	106	79%	2%	903	108%	3%
仏	672	88%	3%	109	92%	2%	781	89%	3%
シンガポール	434	89%	2%	274	95%	5%	708	92%	2%
香港	267	85%	1%	88	94%	1%	355	87%	1%
イタリア	159	110%	1%	106	97%	2%	265	104%	1%
小計	22,696	95%	95%	5,907	83%	99%	28,603	92%	96%
その他の国	1,102	102%	5%	75	88%	1%	1,177	101%	4%
合計	23,798	95%	100%	5,982	84%	100%	29,780	92%	100%

★ 米・英・地域別の輸入額一覧である。(表3—b)

◆ 前年比および構成比を示した。米、英、EURO圏が下降であった。①ユーロ圏は17カ国、但し、ゼロ輸入国が(キプロス)、(マルタ)、(スロバキア)、(スロベニア)の4ヶ国になったので、実質は13ヶ国である。繰り返しになるが、他の通貨が流通している一部の地域、例えば、ニューカレドニア(フランス)、アルバ(オランダ)、ビュージンゲン(ドイツ)、カンピオーネ・ディターリア(イタリア)などは除かれている。②東アジアには、中国、韓国、香港、台湾の4カ国を含めた。③東南アジアは、シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナム、フィリピン、カンボジア、その他インド、パキスタン、ネパールの10カ国としているが、今回はネパールがゼロなので、実質は9ヶ国である。

(表3—b)2012年 米・英・地域別の輸入額 (単位 1,000百万円)

品名 国名	米	英	EURO 圏	東アジア	東南アジア	その他の国	合計
書籍類	7.1	5.4	2.6	6.9	0.8	1.0	23.8
雑誌類	3.0	0.8	0.3	0.3	0.3	1.2	5.9
合計	10.1	6.3	2.9	7.2	1.1	2.2	29.8
前年比	85%	88%	64%	100%	100%	440%	92%
2012 構成比	34%	21%	10%	24%	4%	7%	100%
2011 実績	11.9	7.1	4.5	7.2	1.1	0.5	32.2
2011 構成比	37%	22%	14%	22%	3%	2%	100%

磁気／光学／半導体媒体輸入額の推移について表4)

★ この表では、「実行関税率表」の分類に従い、「磁気媒体」と「光学媒体」と「半体媒体」及び、今回から少量であるが「その他」を併記して対照表とした。「ディスク、テープ、不揮発性半導体記憶装置、スマートカード、その他の媒体」を含む。」と定義されており、CD-ROM、DVD (DVD-ROM、DVD-RAM、DVD-R、DVD-RW、Blu-ray Disc)などは「光学媒体」に含まれる。【これらの媒体(記憶装置)は、「記録してある商品、記録してない商品、ディスク製造用の原盤及びマスターを含む」が、「感光性の写真用プレート／フィルム(露光してないものに限る)」は含まれない。】と説明されている。多種多様の媒体が含まれるので、数値は飽くまでも「参考まで」と考えていただきたい。

(表4)磁気／光学／半導体媒体輸入額の推移 (単位 百万円)

品名\年	2006	2008	2009	2010	2011	2012	前年比
CD-ROM (1)	39,206	～	～	～	～	～	NA
CD-ROM (2)	31,412	～	～	～	～	～	NA
合計	70,618	～	～	～	～	～	NA
磁気媒体	～	17,181	10,005	7,566	3,445	3,338	97%
光学媒体	～	95,427	77,012	80,189	79,287	78,733	99%
半導体媒体	～	114,827	115,247	145,457	114,506	120,189	105%
その他	～	2,188	1,124	949	1,142	1,142	100%

◆ “磁気媒体”と“光学媒体”については、(記録してないもの)及び(その他のもの)に区分されており、それぞれ 18%：82%、30%：70% である。“半導体媒体”は(不揮発性半導体記憶装置)、(スマートカード⇒プロミキシティカード)及び(その他のもの)に区分され、それぞれ 89%：1%：10% である。区分ごとのインパクトはパーセンテージが示すとおりである。

国別11位～30位の輸入統計について：(表5)

★ 今回は、フィリピンが後退、カンボジアが19位、エストニアが最下位に入った。1位～10位が変わらずで、上位30ヶ国が例年通りほぼ99.9%の構成率と、重要な仕入先リストである。因みに、エストニアは、人口138万人、人口密度が低く、30人／1平方キロメートルとのことだ。

(表5)2012年 国別11位～30位の輸入統計 (単位 百万円)

国名 項目	2012年輸入額合計			2011実績 書籍+雑誌	2012年 前年比	2011年 総合順位	2012年 総合順位
	書籍	雑誌・ 新聞	合計				
主要10カ国 合計	22,696	5,907	28,603	31,084	92%	(1-10)	(1-10)
台湾	2148	1.5	2163	2137	101%	11	11
マレーシア	146.1	3.2	149.3	81.8	183%	16	12
ブラジル	108.7	31.8	140.5	165.9	85%	13	13
アイルランド	122.7	0.0	122.7	11.8	1040%	26	14
タイ	104.9	0.0	104.9	182.7	57%	12	15
スイス	84.0	2.9	86.9	109.6	79%	15	16
カンボジア	46.0	0.0	46.0	8.5	541%	30	17
スペイン	42.5	2.9	45.4	18.1	251%	21	18
カナダ	32.8	0.3	33.1	36.7	90%	17	19
ベルギー	20.2	11.6	31.8	125.9	25%	14	20
インド	26.6	3.1	29.7	15.6	190%	23	21
オーストリア	15.0	8.0	23.0	14.7	156%	24	22
ロシア	20.4	0.0	20.4	25.5	80%	18	23
スウェーデン	18.7	0.6	19.3	23.3	83%	19	24
オーストラリア	11.0	7.9	18.9	22.0	86%	20	25
インドネシア	12.3	0.0	12.3	16.0	77%	22	26
メキシコ	11.0	1.3	12.3	14.3	86%	25	27
ポーランド	9.5	0.2	9.7	11.0	88%	27	28
デンマーク	5.9	0.0	5.9	10.0	59%	28	29
*エストニア	5.1	0.0	5.1	6.9	74%	(ゾロビ と交代)	30
小計(1)	1,058	75	1,134	1,114	102%	～～	～～
その他の国	43.8	0.0	43.8	49.1	89%	～～	～～
小計(2)	1,102	75	1,177	1,163	101%	～～	～～
合計	23,798	5,982	29,780	32,247	92%	～～	～～

洋書関連品目の輸入統計について：(表6)

★ 印刷物として第49類に含まれる諸品目の通関額を、参考までに表にまとめてきたが、報告年は輸入額合計が「書籍・雑誌類」の2倍を超えた。「書籍・雑誌」を凌ぐ数値、「その他の印刷物(広告など)」は、印刷した絵画及び写真を含む品目で、【絵又は挿絵を印刷したもの(折り丁又は単独のシートのものに限る。)で文章を伴わないものは、第49.11項に属する。】と定義され、当該輸入量である。

(表6)2011vs2012(&2003:10年前)その他の(49類)品目輸入統計表
(単位 百万円)

品目　＼　内訳		2011年 輸入額	2012年 輸入額	前年比	2003年 輸入額	2003年(10年間) との比較
葉書、印刷したカードなど		1,712	1,914	112%	1,199	160%
カレン ダー	紙製または板紙製	2,331	2,615	112%	2,069	126%
	その他のもの	88	73	83%	142	51%
	小計	2,419	2,688	111%	2,211	122%
そ　の 他　の 印　刷 物	広告・商業用カタログなど	6,979	9,550	137%	6,631	144%
	写真	2,095	2,122	101%	998	213%
	絵画・デザインなど	983	1,219	124%	2,381	51%
	その他のもの	20,626	29,097	141%	18,516	157%
	小計	30,683	41,988	137%	28,526	147%
郵便切手・収入印紙など		20,357	18,451	91%	272	6783%
デカルコマニア		569	1,093	192%	910	120%
設　計　図		26	31	119%	113	27%
合　計		55,766	66,165	119%	33,231	199%

❖ 「広告など」は、中国から60%と最も多く、イタリアから8.5%、その他ドイツ、韓国、アメリカ、フランス5%～4%など。「写真」も中国から最も多く67%、「絵画、デザイン」はアメリカから31%、中国から21%などとなっている。金額的に「書籍・雑誌」を超えている「その他のもの」には“文章を伴わない絵又は挿絵の折り丁又は単独シート”が含まれている筈である。アメリカ39%(内9%がプエルトリコ)の輸入が最も多く、続いてシンガポール33%、中国11%であった。アイルランドは前年度の約半減で4%であった。計47ヶ国で、書籍などの仕入先以外に、モロッコ、カザフスタン、コスタリカなどの国々からも輸入があった。ジブチからも40万円ほどの輸入があった。《余談❖2》ジブチ共和国は人口86万人の小国で、中央部にある“アッサル湖”は、塩濃度が34.8%と高い10km x 7km、表面積54km²の火口湖で、死海を凌ぎ、地球上で最高水深20メートルで塩濃度39.8%を測定したとのこと、採れる塩は古代から貴重な資源であると記載があった。隣接するソマリア沖の海賊問題は、国際的に重大で、2011年7月7日に「海賊行為の処罰及び海賊行為への対処に関する法律」によって、初の自衛隊海外基地が開設されたそうである。

7) 輸出統計「書籍と新聞・雑誌」について：(表7-a)

★ 全体像を見ると、前年比-9%の減少である。

❖ 「単一シート」は前年度より1ヶ国増の35ヶ国に輸出され、昨年同様にオランダに最多の20%、カナダ11%、

米国10%であった。前年度、次点であったオーストラリアは1%となっている。エチオピア、ウガンダ、マダガスカルなどの国々へも少量の輸出が続いている。

(表7-a) 2011vs2012 書籍類「輸出」統計表 (単位 百万円)

分類	品目	2011輸出額	2012輸出額	前年比	2012構成比
書籍 および それに 類する もの	単一シートのもの	3,233	2,171	67%	15.7%
	辞典および事典	15	28	187%	0.2%
	その他のもの(書籍)	7,313	7,690	105%	55.8%
	幼児用の絵本および習画本	47	44	94%	0.3%
	小計(1)	10,608	9,933	94%	72.0%
	楽譜	233	201	86%	1.5%
	地図・海図・地球儀	56	50	89%	0.4%
	小計(2)	289	251	87%	1.8%
新聞・雑誌 その他の 定期刊行物	1週に4回以上発行するもの	20	12	60%	0.1%
	雑誌・その他の定期刊行物	4,284	3,597	84%	26.1%
	小計(3)	4,304	3,609	84%	26.2%
合計	(1)+(3)	14,912	13,542	91%	98.2%
合計	(1)+(2)+(3)	15,201	13,793	91%	100.0%

❖ 「辞典・事典」は13ヶ国へ輸出された。最多はドイツで25%、アメリカ22%と並んだ。

❖ 「書籍」の輸出先が76ヶ国と前年度に続き17ヶ国少なくなり、この2年間で32ヶ国への輸出が止まったことになる。国際社会の情勢を反映しているように、中東、アフリカ、南米、バルト3国などの一部が抜けて、日本企業の操業が比較的よい状態にあると思われる国々への輸出は安定しているようである。即ち、アメリカ30%と増加した。台湾 11%、中国 9%、韓国 7%、香港 5%など、近隣の国々が若干の減少であった。輸出が無かった国々にはイラン、レバノンも含まれていた。

❖ 「幼児用絵本および習画本」は10ヶ国へ。香港49%と前年比で若干増加である。

❖ 「楽譜」は前年度より4ヶ国少ない20ヶ国へ輸出され、インドネシアが50%と大半であった。

❖ 「地球儀・天球儀」の輸出は中国と米国のみの2ヶ国であった。製本された「地図・海図」は3ヶ国で、韓国、シンガポール、フィリピンである。「その他のもの(壁掛け型など)」は前年度より多い14ヶ国への輸出があり、韓国は前年度より増加して70%であった。『竹島帰属問題』は継続しているが、外交問題と社会情勢には個別のルールがあるようで、喜ばしいことである。

❖ 「新聞・雑誌」については、“1週に4回以上発行するもの”が8ヶ国へ、“その他のもの(雑誌、ジャーナ

ル)”が28ヶ国へ輸出された。前者は、韓国69%、その他香港、タイ、シンガポール、マレーシアと、英国、ベルギー、フランスである。後者は、台湾26%が最多で、香港21%、韓国13%、中国7%と東南アジア地域が多く、米国は12%で、その後は南米諸国とヨーロッパの複数国が含まれていた。これも日本企業の進出が多い地域が需要の中心と見える。総じて、日本語の勉強に興味を持つ人口の増減が、多少関係しているのかも知れない。

★ 10年間の輸出統計の推移(表7-b)

❖ 「書籍」と「雑誌」とともに2年連続の減少になっている。海外で購読する駐在員が多いと思われるが、便利な【“アマゾン”の電子書籍サービス「キンドル」】に切り替えるのは必然の流れであろう。

(表7-b) 10年間の書籍類「輸出」統計の推移 (単位 百万円)

分類 / 暦年	書籍・辞典・絵本			雑誌・新聞			合 計		
	輸出額	前年比	指数	輸出額	前年比	指数	輸出額	前年比	指数
2003	12,799	95%	100	4,283	99%	100	17,082	96%	100
2004	11,330	89%	89	4,492	105%	105	15,822	93%	93
2005	10,342	91%	81	4,587	102%	107	14,929	94%	87
2006	11,159	108%	87	4,580	100%	107	15,739	105%	92
2007	11,831	106%	92	4,810	105%	112	16,641	106%	97
2008	10,816	91%	85	4,717	98%	110	15,533	93%	91
2009	11,358	105%	89	4,593	97%	107	15,951	103%	93
2010	14,425	127%	113	4,974	108%	116	19,399	122%	114
2011	10,608	74%	83	4,305	87%	101	14,912	77%	87
2012	9,933	94%	78	3,609	84%	84	13,542	91%	79

書籍と雑誌の「輸入:輸出」(%)で見る歴史(表8)

★ 絶対値のバランスを示す。この10年で7%~8%の変化である。リプリント版の発行、東南アジア諸国向けの輸出が増加した一時期にバランスが逆転した。その後はほぼ7:3で推移している。

(表8) 書籍と雑誌の「輸入:輸出」(%)で見る歴史

分類 / 暦年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
輸入	77%	77%	75%	74%	74%	70%	64%	68%	69%
輸出	23%	23%	25%	26%	26%	30%	36%	32%	31%

9) 為替相場と洋書価格への推定影響度について:(表9)

(表9) 為替相場と洋書価格への推定影響度(主要通貨のみの推定)

暦年／ 通貨＼	2009年の 年間平均 為替相場	2010年の 年間平均 為替相場	2011年の 年間平均 為替相場	2012年の 年間平均 TTS 為替相場	前年比 [(+)は円高 [(-)は円安]	決済通貨の 使用率 (推定)	2011年度の (vs.2010年) 影響度(推定)
US\$ (USD)	¥94.57	¥88.81	¥80.84	¥80.82	0.0%	55%	-7.4%
£ (GBP)	¥150.35	¥139.60	¥132.06	¥130.49	1.2%	21%	-7.5%
EURO (EUR)	¥131.70	¥117.89	¥112.62	¥104.13	7.5%	10%	-0.7%
人民元 (CNY)	unquoted	¥12.70	¥12.75	¥12.32	3.4%	5%	-7.3%
ウォン (KRW)	～	¥7.17	¥7.41	¥7.08	4.5%	2%	-3.5%
Can\$ (CAD)	¥83.79	¥86.78	¥82.40	¥81.45	1.2%	0%	-6.5%
S.Fr. (CHF)	¥87.15	¥85.07	¥91.10	¥86.06	5.5%	0%	-2.6%
Others	～	～	～	～	～	0%	～
Jpn.¥ (JPY)	～	～	～	～	～	7%	～
主要7通 貨平均	¥96.29	¥90.45	¥82.76	¥82.51	0.3%	100%	-7.4%

<参考資料>

Aust.\$ (AUD)	¥75.91	¥82.57	¥84.46	¥80.67	4.5%	?	?
NewZeal.\$ (NZD)	¥61.22	¥65.21	¥65.16	¥62.68	3.8%	?	?
香港\$ (HKD)	¥12.50	¥11.73	¥10.69	¥9.86	7.8%	?	?

◎ 各通貨の年間平均は、“三菱東京UFJ銀行”の2012年最終公表相場による各通貨月中平均値単純平均を“三菱リサーチ&コンサルティング”のホームページより検索したものである。

◎ 《二重線括弧内》は、ポピュラーな3通貨で、参考までに示した。

★ 「決済通貨の使用率」を、再度見直した。1999年には“日本銀行”のホームページに公表されていたデータを使用した。が、以来情報がないので、銀行筋の情報と上記(表3-b)をベースにして想定した。即ち、米ドルは金融市場の厚みから国際決済通貨の中心的存在に変化はないだろう、また、ユーロは欧州周辺で存在感が増して行くだろう、との上記研究所の見通しを考慮した。外貨準備が米ドルからユーロへ分散化の動きがある、との昨年の情報もある。新政権のスタート以来“円安”が動き、アジアでは中国人民元の重要性が増して、人民元決済を

扱う金融機関が増えてきている、とのこともある。以上、米ドルは中心的存在、外貨準備がユーロへ分散化、人民元決済を扱う金融機関の増加などを考慮して“決済通貨使用率”を想定した。参考として“前年度の基準”をベースにした影響度も算出した。

10) 10年間の為替推定影響度の歴史について:(表10)

★ 10年間の推移の一覧表である。

(表10) 10年間の推定影響度(主要通貨のみの推定)

暦年／ 区分＼	書籍・雑誌 輸入額前年比	為替相場 平均値前年比	推定影響度 成長率(+) (-)
2003	100.4%	-2.3%	-5.5%
2004	90.1%	-1.4%	-4.6%
2005	97.0%	-1.5%	-1.1%
2006	103.6%	-9.4%	-6.1%
2007	98.0%	-2.3%	-4.2%
2008	87.0%	11.7%	2.3%
2009	83.0%	10.6%	-7.2%
2010	83.0%	6.1%	-0.3%
2011	92.7%	8.5%	0.7%
2012	92.3%	0.3%	-7.4%



☆ 1999年3月号、会報Vol.33 No.3(通巻382号)から15年、学生生活に喩えれば4月で大学4年生である。付記したコメントが、“独断と偏見”に過ぎたか、という悔いもあるが、“卒論”のつもりで今回の“報告”をまとめた。毎日が勉強で、“mass media”を利用しての知見と情報アップデートは正に“我田引水”となり、この仕方が老いてきた脳細胞にも最高の刺激と糧を与えてくれたように感じた。“1742万5170桁”の真に桁外れの素数が見つかった、という。多少の刺激と糧では到底これを理解するところまでは程遠いが!“Man proposes; God disposes.”という諺あり。「人事を尽くして天命を待つ」ことにしよう! 毎年、貴重で楽しい執筆のチャンスをいただいたことに、深謝申し上げる。

おわり

本のネット購入サービス

ナレッジワーカー KNOWLEDGE WORKER

- ✓ 「新」検索エンジン搭載で快適検索！
- ✓ 見やすい、使いやすいインターフェース！



選書

選書を支援する多彩なメニュー！

丸善ならではの多彩な選書メニューをご用意。膨大な情報からお薦め書籍を紹介する「レコメンド」機能や、最新書籍をお知らせする「アラート」機能など、お客様の本書選びをお手伝いします。

照会

気になる入荷状況も一目瞭然！

ご注文書籍の入荷状況が画面上から確認でき、履歴情報のデータ出力も可能です。絶版・品切れ等の状況や出荷情報もメールでご連絡します。

発注

カートへ投入するだけの簡単発注！

在庫・納期の情報や購入履歴との重複チェックを確認して、カートへ投入するだけの簡単発注。注文書作成の手間が無くなり、納期の短縮を実現します。

支払

決済方法を選択でき、お支払いが便利！

予算費目に応じた請求書の発行はもちろんのこと、カードでのお支払いも可能です。カード決済の場合は、画面上で領収書の発行が行え、会計上の手続きが便利です。

 Knowledge Worker のご登録はこちらから

<http://kw.maruzen.co.jp/>



丸善株式会社 学術情報ソリューション事業部
〒105-0022 東京都港区海岸 1-9-18 国際浜松町ビル
TEL : 03-6367-6096 FAX : 03-6367-6193 E-mail : kw-i@maruzen.co.jp

ジョン・メイナード・ケインズ著作集
(ペーパーバック版) 全 30 巻

The Collected Writings of John Maynard Keynes 30 Volume Paperback Set

By John Maynard Keynes / Edited by Donald Moggridge and Austin Robinson

2012 15053 pages

Paperback 978-1-107-67772-2 US\$875.00

John Maynard Keynes (1883–1946) was without doubt one of the most influential thinkers of the twentieth century. His work revolutionised the theory and practice of modern economics. It has had a profound impact on the way economics is taught and written, and on economic policy, around the world. *The Collected Writings of John Maynard Keynes*, published in full in electronic and paperback format for the first time, makes available in thirty volumes all of Keynes' published books and articles. This includes writings from his time in the India office and Treasury, correspondence in which he developed his ideas in discussion with fellow economists, and correspondence relating to public affairs. Arguments about Keynes' work have continued long beyond his lifetime, but his ideas remain central to any understanding of modern economics, and a point of departure from which each new generation of economists draws inspiration.

Contents

Volume 1: Indian Currency and Finance (1912)
Volume 2: The Economic Consequences of the Peace (1919)
Volume 3: A Revision of the Treaty (1922)
Volume 4: A Tract on Monetary Reform (1923)
Volume 5: A Treatise on Money: The Pure Theory of Money (1930)
Volume 6: A Treatise on Money: The Applied Theory of Money (1930)
Volume 7: The General Theory (1936)
Volume 8: A Treatise on Probability (1921)
Volume 9: Essays in Persuasion (full texts with additional essays) (1931)
Volume 10: Essays in Biography (full texts with additional biographical writings) (1933).
Volume 11: Economic Articles and Correspondence: Academic
Volume 12: Economic Articles and Correspondence: Investment and Editorial
Volume 13: The General Theory and After: Part I. Preparation
Volume 14: The General Theory and After: Part II. Defence and Development
Volume 15: Activities 1906–1914: India and Cambridge
Volume 16: Activities 1914–1919: The Treasury and Versailles

Volume 17: Activities 1920–1922: Treaty Revision and Reconstruction
Volume 18: Activities 1922–1932: The End of Reparations
Volume 19: Activities 1924–1929: The Return to Gold and Industrial Policy: Part I and II
Volume 20: Activities 1929–1931: Rethinking Employment and Unemployment Policies
Volume 21: Activities 1931–1939: World Crises and Policies in Britain and America
Volume 22: Activities 1939–1945: Internal War Finance
Volume 23: Activities 1940–1943: External War Finance
Volume 24: Activities 1944–1946: The Transition to Peace
Volume 25: Activities 1940–1944: Shaping the Post-War World: The Clearing Union
Volume 26: Activities 1941–1946: Shaping the Post-War World: Bretton Woods and Reparations
Volume 27: Activities 1940–1946: Shaping the Post-War World: Employment and Commodities
Volume 28: Social, Political and Literary Writings
Volume 29: The General Theory and After: A Supplement
Volume 30: Bibliography and Index

(詳細についてはお問い合わせください。)



A Cambridge University Press company

United Publishers Services Limited

1-32-5 Higashi-shinagawa, Shinagawa-ku, Tokyo 140-0002 JAPAN Phone (03)5479-7251 Fax (03)5479-7282